

筑波大学法科大学院

令和3年度入学者選抜 法学未修者コース筆記試験

法学未修者コースの筆記試験では、読解力、論理的思考力、分析力、論述能力をみます。法律の専門的知識を問うことはありませんが、法的分野に関連する問題が出ることはあります。

《出題趣旨》

【第1問】

児童虐待を防ぐためのさまざまな対策が試みられているにもかかわらず、児童虐待の相談件数および虐待による死亡事例件数は年々増加しており、痛ましい事件が報道されることも多いのはなぜか。この疑問に対して、原文の筆者は、虐待の末、子供の命を奪ってしまった親は、「残酷で、不真面目で、どうしようもない人間」ではなく、むしろ、社会の規範に過剰なまでに身を沿わそうとして、力尽きてしまった「生真面目な」人たちとだと分析する。こうした、筆者の見解を十分に理解し、適切に分析・要約できるか、について問うた。

【第2問】

自分を取り巻く社会に流布する言説から抜け出して自ら思考し、行動することは言うほどに容易なことではない。当たり前と思われたことが決して当たり前でないことに気づくことは容易ではないし、また、行動にあっては、社会からの圧力や政府からの圧力を受けることがしばしばみられるからである。原文の筆者は、ヴォルテール著『カンディード』にこの問題意識を読み解いている。このような筆者による『カンディード』の分析を理解し、その問題意識を適切に把握しながら自己の見解を論理的に展開できるか、について問うた。

以 上